

ヘルメット着用お手本に

若松署 会津北嶺高に協力要望



①「ヘルメットを着けることが当たり前になった」と話す野球部員
②石山校長③に要望書を手渡した本多署長

会津若松署は23日、高校生に自転車利用時のヘルメット着用を協力してもらおうと会津北嶺高に要望した。同校をモデルケースに、管内全ての高校生が着用を「当たり前」と思える機運をつくりたい考え。

県警が9月に公表した調査結果によると、今年の会津若松市のヘルメット着用率は10・4％。県全体の着用率(27・0％)より低く、努力義務化された着用の徹底が求められている。



同校の石山裕司校長は10月、野球部の1、2年生56人に自転車用ヘルメットを贈った。野球部員は自転車で市内の練習場に通っている、移動時は必ず着用することになっている。今後、全校生に着用を呼びかける。野球部の新垣悠斗さん(2年)は「最初はかぶるのが恥ずかしかったが、周りが着けていると気にならなくなった。今では着けるのが当たり前になった」と話し、吉田海刀さん(同)

は「地域の人のお手本になればうれしい」とほかにむ。要望書の提出は同校で行われ、本多文彦署長が石山校長に要望書を手渡した。本多署長は「着用率が上がるきっかけになれば」と話し、石山校長は「生徒の命を預かる立場として、会津の高校全体で着用を呼びかけていきたい」と応えた。